

ラボテスト

寝袋に使用する素材の品質や、設計されたモデルが想定通りの性能を発揮できるかということは基本的なポイントです。

それらの検証のために、私たちは「東レ人工気象室テクノラマ」や各種のラボに依頼し検証や測定を行ってきました。

東レ・人工気象室テクノラマ

人為的な積雪を準備した人工気象室内の温度は -20°C に設定、テスターに取り付けた温度センサーやサーマルイメージャーを使用した客観的な測定と、テスターへのヒアリングによる体感的な測定を組み合わせ情報収集を行います。

EN-13537

EN-13537」テスト方式は2005年より欧州圏内で販売・生産される寝袋の標準的なガイドラインとして公開され、現在では多くの地域で採用されています。私たちは「EN-13537」の測定のために、現地(欧州)の検査機関に寝袋を送り、検査を依頼しています。

然しながら、同テストにもいくつかの気になる点が散見されるため、私たちは「EN-13537」の数値のみを追求するのではなく、独自のポリシーに基づいて快適睡眠を探求しています。一例をあげると、同テストは静止状態で実行されるために、睡眠中の動きが考慮されておりません。

収集したデータを見る限りでは、ややタイトに設計したモデルが数値が良くなる傾向のようですが、私たちのモデルでは、広すぎず狭すぎない適度な余裕を残すことを基本に、寝心地を含めたより快適な睡眠を追及しています。同様に、「一晩にコップ一杯」とも言われる睡眠中の不感蒸泄による湿度の増加が加味されていない点もポイントであり、睡眠中の湿度の増加にも配慮した生地や保温材の選択も重要であると私たちは考えます。

